

「水がたいへん！」

写真は、サンパウロのある地区での水道管の様子と日本から技術支援に来ている下村さんです。

1つの水道管に別の水道管がたこ足状につけられています。それによって水道メーターを通らないため、水道水として管理することができません。このようにして水が盗まれている現状があります。また、水道管が十分にメンテナンスされていないため、漏水も大きな課題になっています。このように、漏水や盗水、メーターエラーで無駄になっている水、収入にならない水のことを「無収水」と言います。埼玉市で漏水や無駄になっている無収水は5.5%ほどなのに対し、サンパウロでは、40%の無収水（漏水25%、メーターエラー11%、盗水6%）がありました。（2009）このような現状を改善するため、2006年から、日本の技術協力として「無収水管理プロジェクト」が行われています。JICAから専門家として派遣されている下村さんは、無収水管理の真の意味と重要性を理解してもらえよう、活動しています。

「治安がたいへん！」

写真は、サンパウロの交番と、勤務するジョルジ軍曹です。

ブラジルのサンパウロ州では、凶悪犯罪が多発し、治安の悪化が問題となっています。1999年には、1年間に12,818件もの殺人が起こり、治安改善が大きな課題となっていました。そこで導入されたのが、地域と共に犯罪を防ぐ活動を行なっている日本の交番制度です。2005年から3年間は「地域警察活動プロジェクト」としてJICAによる協力活動が行われました。石川県警から専門家が派遣され、20カ所のモデル交番の設置、技術指導やモニタリング（日本型交番のノウハウ、日常業務に必要なマニュアル作り、活動計画や政策の策定）などが行われました。それにより、2008年度は、殺人件数が4,426件まで減り、その他の凶悪犯罪も大きく減るという効果がありました。ブラジルでの交番活動には「コミュニティ活動」が含まれることが日本の交番と異なる点です。青少年育成のためのサッカーチーム指導や1人暮らしのお年寄りのためのクリスマスパーティー開催など、地域のニーズに応じて活動を行なっています。

写真のジョルジ軍曹は、「以前の交番は、警官の休憩所のような場所であった。JICAのプロジェクトは当初、効果があると思っていなかったが、やるべきことをやるうちに効果を実感した。サンパウロでは264カ所の交番があるが、日本のようにまずはサンパウロ全ての地区に交番を広めたい。みんなが同じ気持ちでやっていけば、必ずよくなると信じている。ピーポ君は、自分たちがこれまで取り組んできたことのシンボルです。」と語ってくれました。

「生計がたいへん！」

写真は、「クワラ」という植物の繊維と、紙すき職人として働くエジソンさんです。

ブラジルのアマゾン地域には、世界の熱帯雨林の3分の1が集中しています。そして、森林伐採による環境への悪影響が問題になっています。クワラもこれまで伐採され、ごみとして捨てられていました。また、金の採取の際に使われる水銀による環境汚染や、人々への健康被害も問題になっていました。森林を伐採しないで、アマゾンの資源を活用することで、環境に配慮した産業を早出し、地域住民の生活の向上を目指すことを目的として導入されたのが日本の紙すき技術です。2005年から2007年まで、「アマゾンペーパープロジェクト」として、水俣市が実施したJICAの草の根技術協力事業です。クワラの繊維から作った紙（アマゾンペーパー）で製品を作って販売することで、住民の新たな収入源を確保することを目指しています。

ここで働くエジソンさんは、1ヶ月日本で研修を受けました。「クワラは今までゴミになっていて、紙になることを知らなかった。これまでは職がなかったが、今は職人としてのプライドがある。家族も養うことができる。毎日仕事が楽しいし、幸せを感じる。他のスタッフも同じ思いをもっている。夢はアマゾンペーパーをさらによくしていくこと。」と話していた。

「森がたいへん！」

写真は、トメアスの農場と、環境にやさしい農業を進める小長野さんです。

ブラジルのトメアスは、1929年から日本人移民が入植し始めました。入植した日本人移民は森を切ることから始め、カカオや野菜の栽培などで試行錯誤を重ねました。戦後は、コショウの栽培が盛んになり成功者も出ましたが、70年代に水害があり、根腐れ病などでコショウは全滅してしまいました。また、マリアで多くの死亡者も出て、トメアスを離れた人も多くいました。そこで、日系農家の人たちが始めたのが混植でした。コショウだけでなく、カカオとの混植を始め、その後、日陰の役割も果たすマホガニーやブラジルナッツなどの樹木を植え始めたのがアグロフォレストリーの始まりです。アグロフォレストリーとは、アグリカルチャー（農業）とフォレストリー（林業）を組み合わせた言葉で、「森をつくる農業」と言われています。森をつくり、生態系を守りながら多様な農作物が栽培されています。単一栽培に比べ、農家の収入も安定するようになりました。日系人の小長野さんや坂口さんは、「日本人だけが豊かになるのではなく、地域みんなで豊かにならないといけない」と、ブラジル人農家にも農業の指導を行なっています。焼畑や製材、放牧で伐採が進む中、アグロフォレストリー農法は、持続可能な農業として注目を集めています。日本でも、トメアスで栽培されたトロピカルフルーツのジュースや、カカオで作られたチョコレートが販売されています。